

「給食で残る野菜などから、ダンボールコンポストを使って、堆肥作りに挑戦」

奈良教育大学附属幼保連携型認定こども園 木下 育子

1. 活動名 「給食で残る野菜などから、ダンボールコンポストを使って、堆肥作りに挑戦」

2. 子どもの姿と読み取り

<現在の子どもの様子>

- ・ 5月に購入する夏野菜の苗を自分で決めて、栽培から収穫、野菜パーティーまでのつながる保育の中で、心を動かし真剣に取り組む年長児の姿が見られた。
- ・ 日常生活では、友達と一緒に考えたり工夫したりして、自分たちで遊びを楽しもうとしている。
- ・ 7月17日の「年長DAY」（年長児が、自分たちでしたいことを考え計画を立て、楽しむ日）に向けて、内容をクラスで考え、話し合い、当日を楽しみにする姿が見られた。
- ・ なかよしタイム（長時間保育・預かり保育）においても、夏野菜や花苗を育てる姿が見られた。

<夏野菜購入から、栽培、収穫までの子どもの様子>

- ・ 5月16日（金）自分で育てる夏野菜を自分で決め、苗を買いに行く年長児に付き添う。ミニトマト、キュウリ、ピーマン、オクラ、枝豆と様々である。パプリカを頼む子も一人いた。自分で決めた苗を購入する子どもたちの表情は凛としていた。
- ・ こども園に帰り、野菜の苗を植え、降園時には、鉢に植えた野菜の苗を、迎えに来た保護者に誇らしげに見せる姿が見られた。
- ・ 子どもたちの野菜の世話が始まった。朝は一目散に水やりに向かう子どもの姿も見られ、自分の夏野菜を育てるという思いを感じた。太陽の光も浴びて、子どもたちの苗は、ぐんぐん伸びていく。担任は、「もう、支柱を付けなければ」と大忙しであった。
- ・ 液体肥料もやり、子どもたちの苗は生長し、花が咲いたり、野菜が実をつけたりと変化が見られ、日々、水やりとともに、野菜の生長を楽しむ。初めて収穫する朝には、ハサミで切った野菜をうっとり眺める表情は印象的であった。
- ・ 7月17日（木）に「年長DAY」（年長児が自分たちで考えたことを楽しむ日）を行うため、内容を話し合う際には、「野菜使ったらいい」「野菜パーティーしたら」と、収穫した野菜を使いたいという気持ちがあふれ、「野菜パーティー」を開催することとなる。パーティー当日は、「パプリカ初めて食べた」「ピーマンも美味しい」と、野菜嫌いの子も友達や担任と共に、育てた野菜を喜んで食べる姿が見られた。自分で決めた苗を買い、育て、収穫し、味わうという一連の保育の流れの中で、子どもたちは、自分で決めたり、友達と相談したりして計画を実行することができ、充実感を味わう様子が見られた。

3. めざす子どもの姿

- ・ 様々な季節の野菜があることに気づく子ども
- ・ 生ごみを減らすこと、活かすことなど、リサイクルに気づく子ども
- ・ 堆肥が野菜作りの栄養になることなど、命の循環を知る子ども

4. 活動のねらいを通して、

- ・給食や農園を通して、様々な季節の野菜があることを知る。(知識および技能の基礎)
- ・野菜の皮や芯、根の部分などが生ごみとなることを知る。(知識および技能の基礎)
- ・乾燥した野菜の皮や芯、根の部分を、ピートモスやぬか、くん炭で混ぜることで、堆肥ができることを知り、挑戦する。(知識および技能の基礎)(学びに向かう力・人間性等)
- ・野菜が土に変わっていくことを感じる。(思考力・判断力・表現力の基礎)
- ・保護者に堆肥作りに挑戦していることを知らせ、興味や関心をもってくださった保護者には、協力してもらい、一緒に楽しむ。(学びに向かう力・人間性等)

5. 評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
① 給食や農園を通して、様々な季節の野菜があることを知っている。 ② 野菜の皮や芯、根の部分などが生ごみとなることを知っている。 ③ 乾燥した野菜の皮や芯、根の部分を、ピートモスやぬか、くん炭で混ぜることで、堆肥ができることを知り、挑戦している。	① 野菜が土に変わっていくことを感じている。	① 乾燥した野菜の皮や芯、根の部分を、ピートモスやぬか、くん炭で混ぜることで、堆肥ができることを知り、挑戦している。 ② 興味や関心をもってくださった保護者には、協力してもらい、一緒に楽しんでいる。

6. 環境構成

○活動の設定理由 (指導案で言うところ「児童観」)

5月、購入する夏野菜の苗を自分で決めて、苗を植え、水をやり、日々の世話をし、実をつけた野菜の生長を心から喜ぶ子どもたち。収穫を楽しみ、クラスで野菜パーティーを行う保育の中で、心を動かし真剣に取り組む年長児の姿が見られた。

そこで、給食などの野菜の皮や芯、根の部分から、ダンボールを使って堆肥作りに挑戦することで、野菜を残さず使うこと、生ごみが減らせることなど、地球にやさしい生活を共に味わいたいと考えた。

○教材について (指導案で言うところ「教材観」)

ダンボール、ピートモス、ぬか、くん炭、野菜を乾かすかご、ダンボールを乗せるかご(通気性のため)、Tシャツ(虫よけ)

○展開の工夫 (指導案で言うところ「指導観」)

- ① 野菜を乾かすかごや、野菜の皮や芯などを実際に見せたり、図や写真を掲示したりして、堆肥を作ることを説明する。
- ② 野菜の乾燥を、子どもたちが確認できるようにする。
- ③ ピートモス、ぬか、くん炭を見せて、ダンボールの中に入れ、乾燥した野菜を加える。
- ④ 子どもと共に、毎日混ぜ合わせて、堆肥作りを行う。

7. ESD との関連

○ 本園教育目標との関連

- [自分から] 給食の野菜の残りをもらい乾燥させて、堆肥作りを楽しむ
- [創造する] 野菜が堆肥となり、次の野菜づくりに活かされる リサイクルに気づく
- [人とともに] 友達や先生と一緒に堆肥作りを楽しむ
保護者にも堆肥作りの楽しさが伝わるようにする

○活動を通して養いたい ESD の視点

- 多様性 季節に応じた様々な野菜や食べ物があることに気づく
- 相互性 野菜の皮、芯、根などからできた堆肥が、野菜作りにつながるということに気づく
- 責任性 堆肥を育てるという意識をもち、堆肥作りを楽しむ

○活動を通して育てたい ESD の資質・能力の基礎

- ・ 未来像を予測して計画を立てる力：野菜の皮や芯、根などが土にかわることに気づく
野菜の皮や芯、根などが次の野菜の育てることに気づく
- ・ 多面的・総合的に考える力：生ごみを減らすこと、活かすことが地球にやさしいことに気づく
- ・ 他者と協力する態度：自分が知った堆肥作りをお家の人に伝え、興味や関心を共有する
- ・ つながりを尊重する態度：野菜の皮や芯、根などが次の野菜の育てることに気づく
- ・ 進んで参加する態度：堆肥作りに主体的に楽しんで取り組む

○ESD で育てたい価値観の基礎

- 環境配慮：生ごみを減らし、活かす
- 人間の尊重：野菜を食べ、残った野菜を土にかえ、野菜を育て、野菜を食べ、自分の体を作る

○達成に貢献できる SDGs

- 12 つくる責任 使う責任

8. 構想と展開

ダンボールコンポストに挑戦

これはなんだ？



ダンボールコンポストについて話を聞いたり、作るの
ところを見たりする

給食さんに、給食の野菜
の皮や芯、根などをもらう



ゴミになる野菜があるんだ!

野菜のゴミで作るの?

野菜すぐ乾いたな!(灼熱する太陽の日差し=夏)

これで、ちゃんとできるの?

あれ?野菜の皮、なくなってる?



土、乾いてる!大丈夫かな?



野菜の皮や芯、根を乾燥させる。事務の方が野菜乾燥かごの表示を掲示してください

ダンボールにピートモス、くん炭を入れて、混ぜる

乾燥した野菜の皮や芯、根を混ぜる

乾燥した野菜の皮や芯、根を加え、毎日混ぜる

トラブル発生!
発酵していない?(家庭でコンポストに取り組む年長A児にたずね、後日、菌が発生していない原因を図で教えてもらう)

雨が降って来た!(野菜がぬれちゃう)

野菜の皮、どうなっていくのかな?

野菜の皮、土になったの?

発酵してる?野菜が残っている!

トラブルが発生した場合は、対処法を子どもたちと一緒に考え、乗り越える

ぬかを混ぜる

堆肥ができる

堆肥を土にかける(なかよしタイム)



- (活動の成果と反省点)
- ・給食で残る野菜の皮や芯が発酵して堆肥となる体験は成果(相互性○)であった。
 - ・発酵が大きな課題であった。コンポストに家庭で取り組むA児のアドバイスで、菌が発生することの重要性を知る。コンポストも生き物であることを実感できた(責任性○)。
 - ・子どもたち・先生方・保護者などの力を借りて、堆肥を作ることができた。
 - ・引き続き「親子で土を混ぜたり、試したりできるコンポスト」に取り組み、堆肥作りを行うとともに、「バイオネスト」にも挑戦し、ESDを子どもや先生、保護者と共に楽しんでいきたい。